

SPRING

No.94 | 日本大学 生産工学部
2010年3月19日発行

■学部長メッセージ

卒業生に贈ることば

生産工学部 学部長 石井 進

■巻頭特集

2009年の就職状況と

2010年の展望と激励

就職活動体験記

■連載 卒業生インタビュー

日鐵住金溶接工業(株) 長崎 肇さん

■トピックス 学科ニュース

■CITニュース

石井進学部長最終講義

キャンパス アイディアコンペ開催

ユニークで、独創的なアイデアが大集合

■平成21年度 表彰学生

●ミモミのもととBikaBika生産工

ミモミのblog掲示板

騎兵第十四聯隊之跡

昭和43年14年10月
長崎市七軒ノ中
昭和62年10月

「卒業生に贈ることば」

卒業生・修了生の諸君、
卒業そして修了おめでとうございます。
心よりお慶び申し上げます。

皆さんがこの大学で過ごした数年間。

それは有意義な時間だったでしょうか。

研究や教育に対して熱意が感じとれる先生の指導や授業を受けることができたでしょうか。ゼミナールや卒業研究に対し人一倍熱心に取り組み、成果を上げることができたでしょうか。そして、肝胆相照らすことができ、一生付き合える友人と出会えることができたでしょうか。原風景あるいは思い出の一コマとしてキャンパスライフが心の中に刻まれたでしょうか。

この数年間、生産工学部では、学生が目線に立ち、入学した学生ひとりひとりと向き合い種々の指導を行うことに最大の努力をし、「学生中心の大学・学部」を目指すと共に自信を持って自分を語れる骨太の学生を育てたいと考え、実践してまいりました。

この数年間で、皆さんは自信を持って自分を語れる骨太の人間に成長したでしょうか。高度情報化技術に対応する安全性や倫理性を身に付けた生産技術や生産システムを構築できる優れた管理技術者を目指す有望な人材として実力を蓄えることができたでしょうか。

ともあれ、日本大学の卒業生・修了生としての誇りを持って下さい。そして自信と勇気を持って下さい。特に、新たな道を切り拓くものは自信と勇気です。

また、この数年間、生産工学部では、多種多様な人材がこの大学を更に魅力ある大学にするものと考え、多様な入試制度を実施していることは周知の通りです。その結果、自分探しのために入学した学生達、つまり自分の将来像がわからない、目的が無くてどうしていいのかわからないけれど入学してしまった学生達も含め、学力、学習意欲、興味、志向、進路等あらゆる面で異なった多様で個性的な学生達に本学部はどう答えていくかが最大の課題と考え、生産工学系科目の充実を初めとした生産工学部らしさの表出は勿論、現代社会のニーズや将来動向を鑑みながら授業カリキュラムを改革すると共に各々の学生達に対して適切な教育メニューを確立してきました。

この数年間で、皆さんは社会に出てから必要な知識と、社会で働く時の常識や態度を身につけることができたでしょうか。いったん社会に出たら毎日の生活の中でも人との付き合いでも全ての問題を自分で考え、解決できるようにその用意はできているでしょうか。一つの現象にもそこに色々な側面があって複雑な背景あるいはいくつもの原因があるのは言うまでもありません。それを知って、自分なりに理解しなければなりません。世の中で問題が起こった時に、正解は必ずしも一つではないということを徐々にでもわかることが必要だと思います。

新たに仕事を始めるとき，仕事に行き詰り迷いが生じたとき，また何か相談事があるとき，再び大学で学びたくなったとき・・・・・・いつでも遠慮することなく大学を訪れてください。エベレストやヒマラヤの山々を目指すアルピニストにとって絶対に必要なベースキャンプと同じ役割を大学や研究室は卒業生や修了生に果たします。

日本大学の校友は昨年の卒業生で100万人を超えました。多くの校友があらゆる分野で活躍しています。お互いに共同し，校友の互いの発展に役立つことができればとても嬉しく思います。人間の歴史を振り返ってみれば，競争がなくても人間は生きられましたが，共同の支えなしに人間は生きられなかったと感じます。

ともあれ，卒業生・修了生諸君は学窓を後にしても，日本大学そして生産工学部及び大学院生産工学研究科の一員であったことに大いに誇りを持ち，益々の活躍と実力を社会で発揮できることを祈念すると共に，今後は学部発展のためにも寄与していただけることと心より期待しております。



日本大学生産工学部
学部長
石井 進

[目次へ](#)

今年度の就職状況及び今後の分析

皆さんもご存知の通り、今までの日本の企業の多くは、正規雇用の社員については、いわゆる「日本的経営」とよばれる「終身雇用」（一度就職した企業で定年まで勤める）を前提とした雇用の保障と長期に渡るキャリア形成、そして「年功賃金」（学歴を基礎とし、年齢が一歳増え勤務年数が一年加わると、賃金が増加してゆき定年まで上昇してゆく）システムを採ってきました。

ところが経済のグローバル化の進行とともに在外子会社との雇用管理の統一化の促進や、経営外の環境変化のスピード激化に対応した製品生産の変動への対処から、いわゆる非正規雇用の社員（派遣労働者など）を積極的に採用し、さらに賃金コストを低減するという戦略に変わり、結果として基幹従業員としての正規社員を絞り込むという採用方針の転換となってきました。

そこに2008年秋のリーマンショックを契機とした世界経済の同時不況という

荒波が到来し、前年までの就職状況とは一変してしまいました。

2009年の状況

グローバル経済の低迷は加工貿易という産業構造をもつ日本を直撃し、輸出産業の典型である自動車と電気業界（生産分業構造または下請分業構造という構造で、傘下企業の裾野が広い）などの国内外の生産も激減した影響で、新規採用を押さえ込むという状況を迎えました。これらの動向は年度当初より頻繁にマスコミで報道され、その結果、同年10月1日現在の文科省・厚労省の調査によると内定率は62.5%で前年同期より7.4ポイント減で、この下げ幅は2000年前後の就職氷河期よりも大きいとされています。更に2ヶ月後の同調査によれば12月1日も前年同期より7.4ポイント減は変わらず、内定率は73.1%となっています。特に私立大学は70.5%、そのうち女子は

Contents

■学部長メッセージ……………	2
卒業生に贈ることば	
■巻頭特集	
2009年の就職状況と……………	4
2010年の展望と激励	
就職活動体験記……………	6
●ミモミのもっとBikaBika生産工……………	13
■連載 卒業生インタビュー……………	14
日鐵住金溶接工業（株） 長崎 肇さん	
■トピックス……………	16
応用分子化学科・電気電子工学科・数理情報工学科	
■CITニュース……………	19
石井進学部長最終講義	
キャンパスアイディアコンペ	
■平成21年度 表彰学生……………	20
■平成22年度 行事予定……………	22
●ミモミのblog掲示板……………	23



騎兵第14連隊之跡碑（津田沼キャンパス）

「社会人基礎力」3つの能力&12の要素



就職状況と2010年の展望と激励

69.0%と最も内定率が低い状況で、改めて新規学卒者の就職状況が厳しいものとなっていることを実感しています。

こうした就職活動のなかで具体的な状況について触れますと、日経就職ナビのモニター調査によれば2009年6月1日現在での一人当たりのエントリー数は81.7社（理系男子は57.7社、女子は65.8社と文系に比較して少ない）で、セミナー・説明会参加社数は45.4社（理系男子は34.6社、女子は32.2社と少ない）、そして実際にエントリーを提出した企業数は20.8社とかなり絞込み、理系男子では16.4社、女子は18.7社でありました。

また、同モニターの10月調査でのデータでは、就職決定企業から内々定を得た時期は、6月以降が24.2%と多いものの、その他の時期では4月が46.8%（上旬18.8%、中旬12.7%、下旬15.3%）と集中していることがわかります。そして内々定を得てから受諾するまでの期間は文理での相違はなく①即日（53.7%）、②1日～4日（15.4%）、③5日～9日（11.8%）と、即答を求められることが最も多いわけですが、長くても10日以内に受諾（通常は誓約書を提出）しなければならないことが求められていることを認識しましょう。

なお、2009年4月のリクルート調査による「新規大学卒の求人倍率（卒業予定者／企業の求人数）」は1.62倍で、前年2.14倍に比べかなり落ち込んではいものの、入社を望む企業に固執しないかぎり就職は可能なのです。

2010年の展望と激励

さて来年度の見通しですが、リクルートの調査（2009年10月中旬、4400社）によれば、11年春の新卒採用見通しで



は、分からない36.6%（前年25.1%）、変わらない48.4%（前年50.6%）、減る9.3%（前年15.7%）、増える5.5%（前年8.3%）と、若干の変動はあるものの、ほぼ2010春の新卒採用抑制が続く見通しとなっています。

こうした厳しい情勢のなかで既に就職活動はスタートしており、2月2日からの3日間に体育館で行われた生産工学部就職セミナーにも総計で2400名の参加があり、企業からも「前年と比べ真剣な態度がみられた」、「積極的な姿勢が感じられた」、との意見が多く寄せられています。但し、先にも触れたように就活を開始してからほぼ決定するまでに約半年の長丁場であり、そこには今まで体験したことのない出来事の連続だと思えます。そうした未知との遭遇を通じてこそ自分の成長がある、と信じていただきたいと思います。

そして、「就活＝自分探しの旅」に当たって次のような助言をしたいと思えます。

昔の諺に「敵を知り己を知れば、百戦危うからず」という言葉があります。就職戦線は正に敵（企業）を研究し、己（自分）を分析することによって、百回戦って百回勝利することも不可能ではありません。

順序としては、先ず20数年の自分の人生を振り返ること（自己分析）から始めてください。勉学を含めどのような事を経験し、そこから何を学んだか、そして身についた力（能力）はどのような分野（仕事）に活かせるか、を客観的に見つめることです。

そして、数多くある業界・企業のなかから、自分が適合できる（その業界・企業の文化に対応でき）、かつ努力した成果が公正に評価され、処遇（給与や配置）に反映される企業を選択することが大事です。2010年の就職も困難な状況が予想されます。皆さんが自分の未来に向けて奮闘されることを期待してやみません。

就職指導委員会

就職活動体験記

機械工学科

藤枝 唯 (本田技研工業(株) 内定)

私が就職活動を始めたのは3年生の10月頃ですが、1年生の頃から第一志望はホンダと決めていました。そして、学科推薦が設けられていることを知りましたので、時間があれば機械工学科の就職担当の先生のところへ相談に行くようになりました。当時、大学院進学と就職で迷っていた私の個人的な相談にも親身に対応していただき、とても助かりました。その相談の中でホンダの学科推薦は学部生のみであると知り、私は院進学ではなく学科推薦をもらうことにしましたことから2、3年生は推薦をもらえるようGPAを上げることに専念しました。今思えば、これも就職活動の一つだったのかなと思います。

こうして第一志望に向けての準備は整いましたが、学科推薦の応募は時期的にかなり遅かったので、面接等の練習も兼ねて他の企業も受けることにしました。

10月は、主にリクナビやマイナビで自分の興味のある企業などを調べ、約30社ほどエントリーしました。この時期の説明会は合同説明会がほとんどでしたが、何も考えずにただ参加していた私にとっては無駄なものになってしまいました。そこで、11月以降はエントリーした企業の単独の説明会のみに絞りました。企業によっては説明会の時点でエントリーシートの提出を求められる場合もあったので、この頃には自己分析を始めていました。

エントリーシート対策としては、「企業研究ノート」をつくって、「その企業の求める人材」「その企業の経営理念」などを中心にまとめていきました。そして、エントリーシートを書くときには、それらがあるままの自分とマッチングしているかどうか考えながら書いていきました。

面接対策は、特に何もせず、ただ正直にありのままの自分を見せることだけ考えていました。しかし、自分にマイナスになってしまうような答えのときは、その後で前向きな言葉を付け加えるよう気を付けました。

その後、学内選考も無事通過し、ホンダの受験の前に他社から内定もいただけたので、自信を持ってホンダの面接を受けることができました。ここでもただ自分の情熱をぶつけることだけを考え、着飾ることはしませんでした。

結果的に、第一志望であったホンダから内定をいただくことができ、ありのままの自分を評価してもらえたことがとても嬉しかったです。

後輩の方達に覚えておいてほしいのは、自分に自信を持ってありのままの姿で望んでほしいということです。それを評価してくれる人は必ずいます。就職活動は人生で一番大きなターニングポイントだと思うので、悔いの残らないよう頑張ってください。

最後になりましたが、今回の就職活動で大変お世話になりました、機械工学科の諸先生方、機械工学科事務の方々にはこの場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



就職活動体験記

電気電子工学専攻

鈴木 康寛 (オーデリック(株) 内定)

私が就職活動を始めたのは2月の中旬からで、今年は就職が厳しいと言われていたので少々遅かったのかもしれませんが。

当初、就きたい仕事はある程度決まっていたので、自分の希望する職種がある企業を少しずつ絞っていきましました。実際に企業の説明会や工場見学会へ参加したのは3月に入ってからです。4月に入り、働きたい企業での選考を受け始めました。このうちの1社がトントン拍子に最終面接まで進み特に大きなミスも無かったので、これで就職活動も終わるのだと思っていました。しかし、返ってきた結果は不採用、その時点でかなり絞って企業を選んでいたのに、他に選考中のところもなく、また始めからやり直しになってしまいました。

そして、ここからが大変でした。受ける企業を増やし説明会へ参加、試験や面接を受けるも、二次選考や最終選考で落ちてしまい内定には結び付かない、そんな状態が続き時間ばかりが過ぎて行きました。周りには内定を貰った知り合いが増える一方、経済状況の悪化により段々と募集をする企業は減り、説明会の予約はほとんどが満席で、私の中では焦りと困惑ばかりが募っていきましました。このとき自分に何が不足しているのか考え付くことはできませんでした。

そんな時、ある企業で人事課の方と就職コンサルタントの方、両名に

就職活動についてアドバイスを頂ける機会がありました。ここは後に、私が内定を頂いた企業でした。私は企業の方との話を通して、今までの就職活動で企業研究に共通して改善点があったことが分かりました。志望動機の中に受けた企業の特徴は入っていたものの、その企業でなくてはならない理由が明確に表現できていなかったことです。実際に企業の方から見て志望動機において、その部分が明確でないと、内定を出した場合に来てくれるか不安になるため、印象が良くても内定には踏みきれないと聞きました。考えてみればこのことは志望動機の基本的なことで、大事だと少々耳にしてきた内容でしたが本当の意味で企業側の意図まで理解していなかったのだと気付きました。改善点が分かってからの選考では、今までよりも自信を持って受けられ、内定も頂くことができました。

このことから私は、上手いかわいときに独りで活動が続けずに就職に詳しい人に相談する、そのことから得られることが非常に大きいということを実感しました。焦っている状態では自分を客観的に判断することは難しく、大事なことを見落としがちになっています。

最後に、就職活動においてはコミュニケーション力、面接時の判断力、それと粘り強さといったものが必要だと実感しました。ただし、これらはすべて就職活動の体験を通して身に付けられたことでした。少しずつでも自分が成長していけば良い結果に繋がります。それが、諦めずに就職活動してきた私の感想です。



就職活動体験記

土木工学科

山形 友香理 (東日本旅客鉄道(株) 内定)

私は、就職活動を始める上で、「自己分析」と「企業研究」を重点的に行いました。

まず1つ目の「自己分析」は、自分がどんな人間なのか、長所・短所などを知っておくことです。自分のことなので、自分が一番わかっているつもりですが、自分だけではなく家族や友達にも自分のことを聞いてみるのも大切だと思います。

2つ目の「企業研究」は、自分自身が企業を選ぶときに何を重要視するかを踏まえながら会社説明会に参加しメモを取り、ノートにまとめました。企業研究を行うことで、企業のことがよく分かりますし、面接でも聞かれることが大抵あるので大切です。

そしてここからは、試験対策について私が行ったことを書きます。

まずは、「エントリーシート対策」です。エントリーシートは一番最初の選考なので、書く内容をよく考えて書きます。エントリーシートの内容は、ほぼ面接のときにいろいろ質問されるので、しっかり自己分析を行って、自己PR・志望動機・学生時代に頑張ったことを書きます。自分が今まで何をしてきたのかを書き出して、一番頑張ったことを強みとして広げていくと良いと思います。

次に「筆記試験・WEB試験対策」です。いろいろな参考書をこなして、問題に慣れることが大切だと思います。実際には制限時間があるの

で、いかに速く・正確に問題が解けるか、練習しておいたほうが良いと思います。

最後に「面接対策」です。面接に緊張はつきものですが、私は、面接官の方との会話を楽しむようにして緊張をほぐすようにしました。面接は主にエントリーシートにそって行われるので、事前にエントリーシートを確認し、その企業で働きたい熱い思いや、ありのままの自分を飾らずに伝えるのが大切だと思います。また、OBの方とお話できる機会があったら、面接のポイントなどを事前に聞いておき、自分の考えを整理しておくとう良いと思います。

私の就職活動は決して模範的な活動ではないと思いますが、最終的には決まって良かったと思います。自己分析なんて普段気にしてするものでもないですし、就職活動がなかつ

たらやらなかったものだと思います。その他にもいろいろな方とお話する機会だったり、普段の学生生活とは違う、少し社会に踏み込んだ経験ができて、自分自身一回り成長することができたと思っています。

就職活動は自分の未来のことなので中途半端な気持ちではなく、本気で考えて、悩んで、相談して、活動してみてください。就職活動で得た経験は無駄にはなりません。必ず結果はついてきます。後輩の皆さんも頑張ってください。



就職活動体験記

建築工学科

川北 悠太 ((株)大林組 内定)

私が就職活動を始めたきっかけは「一緒に会社説明会に行ってみないか?」という友人からの誘いの一言でした。その当時は10月頃で就職活動を始めている人はまだ少なく、自分がやりたい仕事も決まっていなかったというもあり、就職活動することを先延ばしにしていました。しかし、せっかくの友人からの誘いだったので、とりあえず軽い気持ちでのった私は着慣れないスーツを着て会社説明会に行くことにしました。

私は初めての説明会で刺激を受けました。社員の挨拶の仕方や声の大きさ、人事の対応の仕方、実際に働いている社員のリアルな体験談など。社会の成り立ちを知り、社会人と学生との違いを強く痛感しました。この日を境に、私はその他の会社も知りたいと思い職種を絞らずに多くの会社を訪問するようにしました。会社説明会ではその会社のカラーを肌で感じる事ができ、1社として同じ会社はないことに気づきました。必ず自分に合った会社があります。私は全部で40社ほど訪問しました。

また、説明会には実際に働いている社員の方々も参加していますが、できる限り多くの社員と接触し、気になること、わからないことをなんでも質問しました。仕事内容、会社の雰囲気や強み、楽しかったことやつらかったこと、仕事とプライベートは両立しているかなど。こうしたことがわかってくると自分がその会

社でどう働くことができるのかイメージできるようになり、自分の適性に合った職種や会社が見えてきました。会社説明会で得た情報は企業研究だけでなく、エントリーシートを書く際に役立ちましたし面接対策にもなりました。

しかし、その一方でSPI対策をしていなかったのが2月の選考に差し掛かった時期は苦勞しました。SPIとは足切り試験のようなもので、近年ではほとんどの企業が実施しています。はじめのころはSPI試験を通過できず面接すらやってもらえない事態だったので絶望しました。とにかくSPIの参考書を3、4冊買ってはひたすら勉強しました。他の選考の準備もしなくてはいけなかったので説明会に行く途中の電車で勉強するなど、肉体的にも精神的にも一番追い込まれる時期でした。SPI対策をもっと早い時期からやっていたら

余裕をもって選考に臨むことができたのかな、と思います。

私はインターンシップでゼネコンの現場を経験してからゼネコンが嫌いだったのですが、最終的にはゼネコンに就職することに決めました。それは説明会を通して様々な会社や職種を吟味した結果、もっとも自分がやりがいをもって働けると考えが変わったからです。

就職活動は自分が社会人になるための土台作りだと思います。学生から社会人へのはじめの一歩になるように就職活動を楽しんでほしいと思います。



就職活動体験記

応用分子化学専攻

岡崎 あづさ (三井化学(株) 内定)

私が就職活動を始めたのは、就職情報サイトのプレオープンである6月下旬でした。大学院に入学したばかりのM1の6月です。活動といっても空いている時間にインターネットで調べる程度でしたが周囲と比べると比較的早いスタートでした。

当初私は、プラント設計に関わる仕事を希望し、その業界・企業をこの時期に探し、エントリーを行っていました。しかしその後、入社しすぐにその仕事に関われなくとも、いずれはそのチャンスのある企業という考えで、最終的には150社程度にエントリーをしました。業界も一つに絞らず、化学・プラントエンジニアリング・エネルギー・食品と4業界に範囲を広げました。そのとき、業界毎に採用選考時期が異なっていることを知り、去年のデータ等でそれをいち早く知り、乗り遅れないことが大切であると感じました。

本格的に始動したのは9月下旬でした。この時期には説明会へ参加したりエントリーシートを出し始めたりしていました。学科主催の就職懇談会に参加したり、又、個人的にOBの方にお会いしたりもしました。やはり自分が行きたいと思う会社にOBがいるのであればOB訪問はした方がよいと思います。現在どのような仕事をされているのか、先輩方の就職活動はどうだったのかは非常に参考になりました。

面接が始まったのは、1月中旬からでした。この頃の面接は、1次面

接は通過するものの2次や3次面接で落ちてしまうことが多かったです。業界・企業研究の不足が原因でした。その企業の業界での位置や強み・弱み、そしてこれから先どのような方向に向かっていくのか等をよく理解しておくことが大切だと感じました。業界研究の本が業界毎に出版されているのでそれを一読するだけでも理解は深まると思います。

面接では、自分自身の話したことに責任を持つことが大切です。“なぜ？”がつきまとうからです。自分自身のことは自分が一番よく知っているので話せるはずですが、志望動機を聞かれた時に、その場しのぎで話したことはすぐに見抜かれてしまいます。

私が就職活動を通して最も大変だったことは、モチベーションを保つことでした。2010年に就職する活

動は前年からの景気低迷により、就職氷河期と呼ばれたり、採用人数を減らすというニュースを耳にしたりする度に、本当に就職できるのかという不安に押し潰されそうになっていました。前進するしかないと自分に言い聞かせながらの就職活動でした。

そのような状況で何よりも感じたのは、就職活動は早く始めるだけではなく、内容が伴った活動をしなければ意味がないということでした。また、就職活動においてライバルとなるのは他大学の人達であるので、自分自身の周囲だけを見るのではなく、早い時期にもっと広い視野を持ち焦る気持ちを持つことも大切だと思いました。



就職活動体験記

マネジメント工学科

山田 光賢 (アイシン精機(株) 内定)

「不景気なんて関係ない・就活が楽しい」そう感じた時に内定しました!!

私は愛知県出身で、高校卒業時から地元のトヨタグループ企業へ就職したいという強い思いがあり、就職活動もトヨタグループ主要企業に絞り、受けた企業も10社程度でした。少ない企業数で不安もありましたが、逆に集中することができ、良い結果が残せました。

また、就職活動では面接等で大学生活について聞かれるため、3年の春に就職活動が始まるのではなく、実は大学生になった時から始まっています。このため大学生活をいかに有意義に過ごすかが重要となります。

私は大学時代にやりたいと思ったことは全て挑戦してきました。資格取得、留学、ボランティア活動、旅行、遊び・・・など。そういった経験から様々なことを感じ、学んでいく中で広い視野や思考を身に付けることができました。

まず、自分が何をしたいのか、何処の会社で働きたいかといった目標(軸)を早く持ち、その会社に入社するために自分には何が足りないのか(自己分析)またその会社を深く知ること(企業研究)から就職活動を始めました。

そのため早い時期から会社訪問などで「生の声」を聴き、積極的にその会社を知ることが必要です。それは「自分」と「会社」のギャップを

埋める作業となります。

私の本格的な就職活動は3年8月の日大就職合宿への参加から始まり、その後9月のインターンシップ、11月の理工系合同就職セミナー、2月の会社説明会、3月のエントリーシート(以下ES)提出、4年4月の面接開始、そして5月の内々定といった流れでした。

ESでは「目立つ・興味をひく」に心掛け、SPI対策では問題集を1冊一通りやって慣れておきました。面接ではその会社でないといけない理由と自分がいかに魅力ある人材であるかを感じさせることに注力しました。

特に不況の打撃を受けた自動車業界は大幅に採用数を減らし、大変厳しいものでしたが、このような時期だからこそ「自分がこの流れを変えるのだ」という強い気持ちを持つように心掛けました。

企業はその人の現在ではなく将来に投資するため、内定がゴールではなく、入社後に自分が何を実現できるかを強気な姿勢で説明しました。会社に私の潜在能力、その後の伸びを予感させることができたことが「差別化」に繋がったのだと思います。

この結果10社中面接に進んだ7社から「内定」を頂くことができました。

就職活動では学歴や成績のみが重要ではなく、閉塞感の漂う現在、どれだけ「夢や強い熱意」の突破力を会社に伝えられるかが重要だと思います。このように意識をすれば就職活動も楽しくなります。

この体験談が、読者の今後の就職活動に役立てば幸いです。



就職活動体験記

数理情報工学専攻

高橋 昂大 (野村総合研究所 内定)

私が就職活動を行い始めたのは1月からでした。当初から就職したい業界は決めていましたが、個々の企業研究は行っていませんでしたので、とにかく多くの会社説明会に参加することを心掛けました。

会社説明会には色々な形態がありますが、大勢の企業が一堂に会して行うイベントよりも企業が個々に行う説明会のほうが、より多くの情報を得られるため、そちらを重点的に多数参加しました。その中で各企業が行っている事業内容や職務形態を調べ、多数ある企業間で対比することにより、それぞれの企業の特色を分析していきました。

就職活動における選考は大まかに書類審査・筆記試験・面接とありますが、SPIやテストセンタなどの筆記試験は数をこなす慣れることで対応できるようにしました。私が最も重視し、努力したことは書類審査や面接で重要になってくる企業研究・自己分析でした。

自分が本当にやりたいことはどんな事であるかを考え、それに対し選考先の企業ではどんな事が可能で、そこに自分がどのように関わられるのか、といったことを各企業に対して行いました。

その際、「大体」とか「なんとなく」といった漠然としたイメージを持つのではなく、企業が実際に行っている事業などに置き換え、明確な輪郭をもったイメージを創り出しました。その内容を話の核に据えエン

トリーシートや履歴書を作成することで自分の考えを簡潔に記すことができ、内容にもより具体性を持たせることができましたし、面接の志望動機や自己アピールの際にも役立てることができました。

面接では企業が異なっても同じような質問をされることが多いため、面接で出た質問に対し、その場で答えるだけではなく、その問に関する自分なりに深く考えた答えをまとめ、次の面接の際にはより良い返答ができるようにしていきました。

また、面接中に心掛けたことは面接官の方の質問の内容からその質問の本質を見極めること、それに対し短く簡潔に返答することを心掛けました。

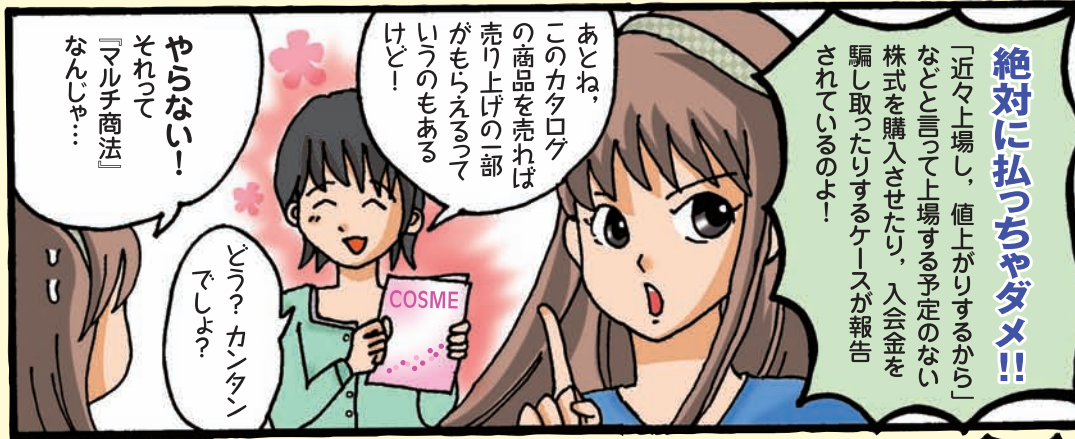
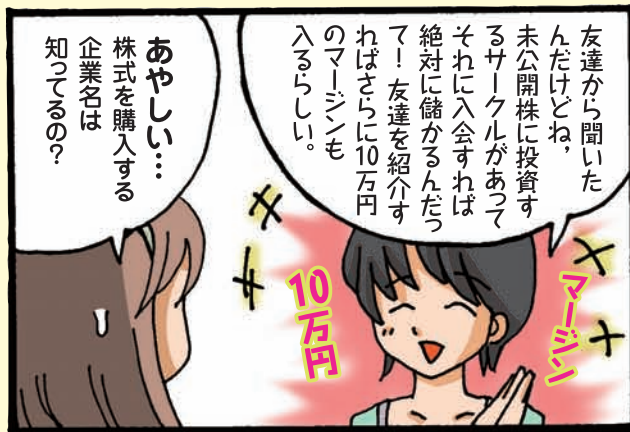
自分の話したいことを長々と話すのではなく、相手の聴きたいことを簡潔に答えそれに対しより深い質問をしてもらう。その繰り返しを数多くこなす事で、結果的に自分のこと

をより多く面接官の方に知ってもらえたのではないかと思います。

就職活動は総じて自己を見つめなおすよい機会であったと思います。自分の素直な気持ちや考えを感じ、外から見た自分を客観的に分析していく。その中でより今までの自分を知り、これからの自分を想像する。それらを繰り返し行い、自分という存在をより理解し周りへ伝えていくことで、最終的に自分に最も適した就職先に就職できるのではないかと思います。

最後に、この就職活動を実りあるものにできたのは周囲の協力や支えがあったからこそであり、さまざまなサポートをしてくださった先生方や友人、家族に大変感謝しております。





遠回りのようでも やったことは無駄にならない

【PROFILE】

昭和26年生まれ。東京都出身。昭和49年3月生産工学部機械工学科卒業。同年4月に日鐵溶接工業株式会社（平成14年に住金溶接工業株式会社と事業統合して現社名に変更）に入社。（社）溶接学会会員、（社）日本溶接協会溶接棒部会技術委員、（社）ステンレス協会委員、（社）ステンレス建築構造協会委員等の団体暦も誇り、自身の会社のみならず日本溶接界の研究開発及び技術に多大な貢献を果たしている。現在、同社の参与で富津研究所長。



学生が中心のキャンパスをめざして、教職員をはじめ、多くの人々がさまざまなかたちで学生をバックアップしている生産工学部。その中でも心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのが、このコーナーです。

今回は、日鐵溶接工業株式会社の参与で富津研究所長の長崎肇さんにご登場いただきました。

生産工学部への入学動機と学生時代の思い出などお聞かせください

小さい頃からものづくりに憧れていて、特に車に興味がありました。小学校の頃が日本のモータリゼーションがまさに始まろうとしていた時期で、晴海のモーターショーへは良く足を運びました。生産工学部機械工学科への入学動機は、車についても学べるということも多少あったかもしれませんが、生産活動に幅広く応用の利きく学科で学べば、ものづくりに関わる仕事に携われると思ったからです。実習が多い点も魅力でした。

3年生の選択科目でとった「溶接工学」が、今考えてみると私のその後の人生の大きな節目の一つだったように思います。「水中溶接」という研究テーマに出会い、水中で溶接が出来るの？と強く興味をそそられて、それを卒論の研究にしてみました。3年生のゼミではエンジン設計の熱力学の研究をしていたので、まさか溶接の方面に行くとは思って

いなかったのですが。卒論研究は、確か5人で約1年間、一緒に研究を続けました。とても辛く楽しく充実した時間でしたね。48時間、1時間ごとに拡散性水素量の測定をしなければならなかったのですが、麻雀卓を持ち込んで、負けて麻雀を抜けた一人が測定係を引き受けるなんてこともありました。

入社後のお仕事内容についてお教えいただけますか

実は今の会社に就職するはずではなかったのです。内定をもらっていた会社から、卒業間際になって内定を取り消されてしまいました。オイルショックで急激に経済が落ち込んだためです。頭には既に就活から切り離されていたので途方にくれてしまいました。そんなとき、現在、機械工学科教授の朝比奈先生が親身に心配くださり、当時の溶接学会会長もしておられた生産工学部の安藤先生にご紹介いただいたのが、溶接材料と溶接機器の総合メーカーの日鐵溶接工業（株）（現、日鐵住金溶接工業（株））です。

初めに配属になったのが、福知山工場。製造管理を皮切りに、当時、原子力



日鐵住金溶接工業（株）習志野工場（提供：長崎氏）



日鐵住金溶接工業株式会社 参与・富津研究所長 長崎 肇氏

産業に携わる上で必要不可欠だったASMEの規格取得、さらに品質管理の業務まで行ない9年間工場にいました。その後、新日本製鉄の第二研究所に派遣され、さらに世界一の研究所といわれる千葉県富津の総合技術研究所設立と共に転勤しましたが、一貫してステンレス溶接材料の研究開発を行うことに。入社後研究生活に入るのが普通だったので、工場経験など間隔があいて初めは戸惑ったのを覚えています。

さらにその後、自社の研究所勤務を経て本社の品質管理部へ移動になり、営業総括部と品質管理部を兼務した後の昨年、富津研究所長に就任しました。研究畑一筋ではない者が所長になるケースは稀だと思います。

溶接ではステンレスは特殊な存在で、ステンレスに関して材料購入から生産依頼、品質管理、販売までトータルに業務をこなしてきたことが色々な面で大きなプラスになっています。平成10年、日米標準化イニシアティブAWS/JWESクリーブランドミーティングに通産省（現経済産業省）の協議委員として、ステンレス鋼フラックス入りワイヤのISO規格案作成に

参画できたことは研究者の一人として誇りですね。

ものづくりの世界を目指す後輩たちへアドバイスをお願いします

この不況下でもものづくりの世界への就職にも厳しいものがあります。会社側から言えば、逆に良い人材を選べるチャンスです。ただし良い人材とは学業が優秀な者という意味ではありません。意欲ややる気があるかないかです。面接して話してみれば、それは分ります。

特に技術者になろうとする者は、意欲を持っていかにいろんなことに挑戦してきたかが大切です。機械の操作ひとつとっても、実体験があるのと座学だけなのは、そこに大きな違いが出るでしょう。幸い生産工学部は、実学の伝統があり様々な実習の機会に恵まれています。何にでも果敢にチャレンジしてください。

それから、これは私の今までの振り返ってみて感じるのですが、一見遠回りに思えることも、実は違うということです。やったことは、決して無駄になりません。私は一研究者としてだけでなく、仕事として材料購入から販売まですべてに

わたって携わった経験で、得たものがたくさんあります。物事を俯瞰的に見ることや立場を変えて考えてみるといったことなどです。自分の予期せぬことや回り道があったからこそ、今の自分があると思っています。皆さんも、関係する何事にも普段から興味を持ち、見聞き、体験、理解する姿勢を大事にしてください。それが引いては積極性に繋がり、会得したことはきっと将来の血となり肉となるはずです。

厳しい時代ですが、ものづくりの世界には日大生産工学部卒の仲間がたくさんいます。夢と情熱、そして勇気を持って、その扉を押してみてください。

《取材後記》

長崎さんはインタビューに、終始穏やかなやさしい口調で答えてくださいました。趣味は、音楽鑑賞と読書、最近始めたゴルフ。多方面にアンテナを張っているものはまってしまうと一直線、読書で言えば、大好きな浅田次郎や白石一郎の上梓されている作品はすべて読破しなければ気がすまないといった性分だそうです。こんなところに、一本筋の通った研究者魂を垣間見ることが出来ます。溶接の著作も多く、また溶接に関する特許出願数は43件にも上ります。

中釜准教授が(社)日本分析化学会関東支部 2009年度新世紀賞を受賞



応用分子化学科
准教授 中釜 達朗

応用分子化学科の中釜准教授が、クロマトグラフィーの高機能化のための要素技術に関するこれまでの研究に対して、12月10日、(社)日本分析化学会関東支部より2009年度新世紀賞を受賞しました。

この賞は同支部に所属する36～45歳の中堅研究者の優れた研究業績をたたえると同時に今後の更なる活躍を期待して贈られる賞です。

中釜准教授は、これまで一貫して分析化学に関する研究を行っており、近年はガスクロマトグラフィー (GC)、液体クロマトグラフィー (LC) などの構成要素である試料導入、分離および検出システムについて、高機能的な新規技術の開発を行っています。以下に受賞対象となった近年の業績をご紹介します。

インクジェットマイクロチップを用いた GC用試料液滴導入システムの開発

極微量の液滴を定量的に吐出できるインクジェット技術を利用して、従来のマイクロシリンジでは不可能であったナノリットル試料液体の定量的かつ高精度なGC導入を実現しました。本システムはキャピラリーカラムの負荷量以下の分離対象物質を定量的にカラムに導入することができるため、高い再現性と分離を実現できるだけでなく、キャリアガス消費量の大幅な削減が可能です。この技術は(独)科学技術振興機構 (JST) の先端計測分析技術・機器開発事業・機器開発プログラム「環境汚染物質測定用ポータブルガスクロマトグラフシステム」における試料導入部に採用されました。

ラジオ波ヘリウムプラズマを用いた GC用小型原子発光検出システムの開発

ラジオ波放電によるヘリウムプラズマ (RFP) 生成を利用し、従来の原子発光検出 (AED) 装置では困難であったGC搭載型高感度AEDデバイスの開発に成功しました。電極を同軸上に配置したマイクロプラズマトーチを開発し、従来報告されているRFP-AEDより省電力、低プラズ



試作したGC搭載型高感度AEDデバイス



開発者の1人として携わったポータブルGCを説明する受賞者

マガス消費量での元素選択的検出・高感度GC測定を可能としました。この技術も前述のJST機器開発プログラムにおける検出部として採用され、GC本体内に検出部、分光部およびボード状電源をすべて搭載したポータブルGC-AEDシステムの構築に貢献しました。

アゾベンゼン誘導体固定相を用いた LC用光照射分離制御システムの開発

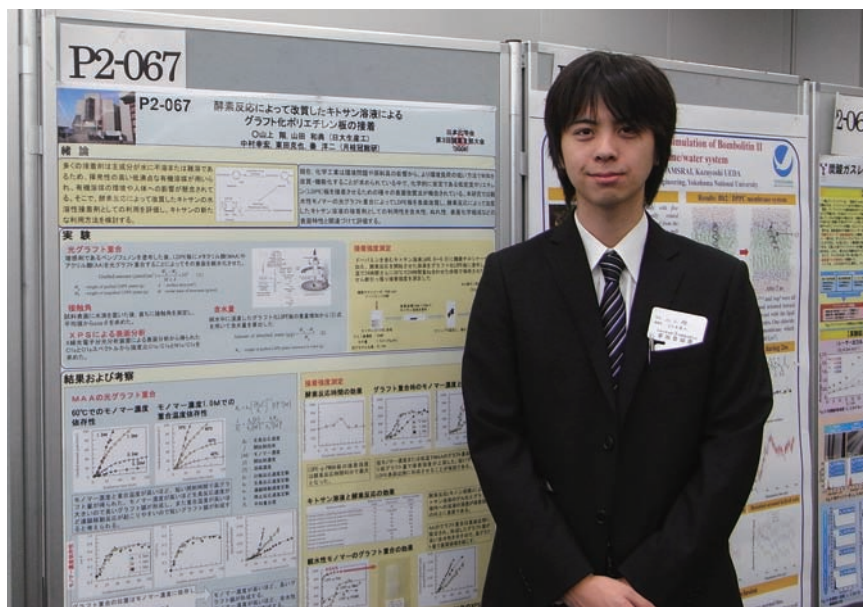
光照射によるアゾベンゼンの可逆的分子形状・極性変化を利用し、光照射により分離能を制御するLCシステムを初めて提案しました。光照射による光学異性体分離能のON/OFF切り替えを実現し、光学活性化合物の溶出順序制御にも成功しています。水100%移動相下での分離制御にも成功しており、「環境にやさしい」分離システムの構築などに利用することが期待されます。

山上 翔君, 日本化学会第3回関東支部大会 において, 優秀ポスター賞を受賞



応用分子化学専攻
博士前期課程
1年 山上 翔

平成21年9月4日(金)から5日(土)まで早稲田大学理工キャンパスで開催された日本化学会第3回関東支部大会において, 優秀ポスター賞を受賞しました。この賞はポスター発表において発表内容, プレゼンテーション, 質疑応答などにおいて優れた講演で, 講演者の今後の一層の研究活動発展の可能性を有すると期待されるものに対して贈られるものです。今回の大会では228件のポスター発表の中から48件が選ばれました。



私の研究テーマは「酵素反応によって改質したキトサン溶液によるグラフト化ポリエチレン板の接着」であり, 所属研究室の山田和典教授に加え, 月桂冠株式会社総合研究所からのご指導を受け日々研究を行っています。

この研究は, 本来は廃棄されるカニやエビの甲殻中の主成分であるキチンを化学処理して得られるキトサンを酵素反応を利用して接着剤として利用することを目的としています。

研究結果から有機溶媒を用いない水溶性接着剤としての可能性を見出すことができ, 今後環境に優しい「エコ」な接着剤としての利用が期待できます。

私にとっての学会発表の初陣は神戸で開催されるは

ずだった高分子化学会年次会でしたが, 新型インフルエンザの影響を受け, 直前になって中止となってしまいました。そのためこの日本化学会関東支部大会が私の初めての学会発表となりました。

初めて感じる特有の緊張と不安の中, 私は日頃の研究成果を一人でも多くの人に知ってもらおうと奮闘しました。

今回私の発表が優秀ポスター賞に選出されたことは, 大学院1年の私にとって大きな自信につながるだけではなく, 就職活動の弾みになると思います。

この受賞をきっかけにさらなる活躍を期待します。

大学院電気電子工学専攻の企画による特別講義開催

平成22年2月5日(金)に、大学院電気電子工学専攻の企画による特別講義が行われました。この特別講義は、「最近の建築電気設備」(副題:原子力発電からエコエネルギーまで)と題し、電気電子工学科を昭和48年3月に卒業した志賀裕氏を講師に迎え、約1時間半に亘る講演をしていただきました。志賀氏は、現在、株式会社関西電工の執行取締役であり、安全環境本部長を務めておられます。聴講者は、大学院生を始め学部3・4年生を主体に約150名が集まりましたが、講演者がOBとあって、氏を知る教員も懐かしさが手伝って、その話に熱心に耳を傾けていました。

志賀氏は三十数年の勤務の間に、一般の建築電気設備を始めとし、ディズニーランドやラポートなどのテーマパークや大規模商業施設、原子力発電や風力発電・燃料電池などのエコ・パワーシステムまで、数えきれないくらいの設備工事を手がけてきています。その豊富な経験と多くの貴重な資料に基づき、電気技術者の卵達としては多いに興味を刺激される話を伺いましたが、最後に、「どんな世界でも、同僚・先輩や同業他社をリードするような実力



37号館101教室における志賀氏の講演

を身につけるには、人の2倍・3倍の仕事をすればいいだけの話だ」という檄を飛ばして講演を締めくくられました。その、長い経験に裏打ちされた迫力のある話に触れて、学生諸君も一気に目を醒められたようでありました。大変に有意義な講演でした。今後も、各界で活躍しているOBを呼んで講演してもらおうと、専攻主任は話しておりました。学生諸君も積極的に参加してください。

文責:新妻(広報委員)

情報処理技術者試験等に 多数の学生が合格

数理情報工学科では、在学中に情報処理技術者試験をはじめとする関連資格の取得を推奨し、春・秋の2回模擬試験を実施しています。今年度は(独)情報処理推進機構が実施する基本情報技術者試験に21名、

ITパスポート試験に1名が合格しました。また、(財)画像情報教育振興協会が実施するCGエンジニア検定CG部門3級に3名の学生が合格しました。今後の活躍を期待します。

<合格者> ※氏名の掲載を希望しない学生を除く。 *は2008年度以前の合格者を示す

■応用情報技術者試験

M2 石井 英明*

.....

■基本情報技術者試験

1年 吉田 達矢

2年 石井 秀和

2年 児玉 雄佑*

3年 北田 直之

3年 楠山 友紀乃

3年 佐々木 夏朗

3年 志甫 侑紀*

3年 菅原 祐人

3年 武田 智裕

3年 萩原 佑亮

3年 花村 成慶

3年 飯田 陽一

3年 増田 雄亮

3年 松本 大賢

4年 池本 達也*

4年 伊藤 崇*

4年 上原 竜*

4年 浦野 千博

4年 遠藤 和則

4年 山崎 雄大

M1 高橋 昂大*

M2 廣田 稔*

その他6名が合格

■ITパスポート試験

1年 永島 侃

.....

■CGエンジニア検定CG部門3級

3年 菅原 祐人

3年 武田 智裕

3年 花村 成慶

石井進学部長 最終講義



「水と空気」をテーマに最終講義をされる石井進学部長。

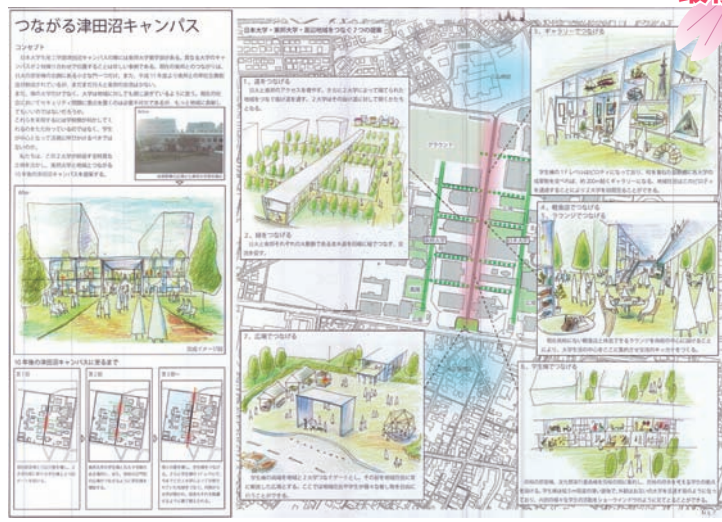
石井進学部長の最終講義が、3月3日37号館101教室にて行われました。

当日は多くの学生、教職員が聴講し、「水と空気」をテーマに講義が行われ、盛況のうちに最終講義は終了しました。



キャンパスアイディアコンペ開催

生産工学部の学生が10年後のキャンパスを想い描いた「キャンパスアイディアコンペ」が11月1日(日)の桜泉祭期間中に行われました。ユニークなアイデアや独創的な作品が多数寄せられ、充実したコンペとなりました。



作品名・テーマ：つながる津田沼キャンパス
制作者：吉川 啓太 建築工学専攻 博士前期課程1年
共同制作者：草柳 めぐみ 建築工学専攻 博士前期課程1年

最優秀賞



優秀賞

作品名・テーマ：renovaTion:C -CIT- ~学び舎の改革~
制作者：山保 太力 数理工学専攻4年
共同制作者：山中 鉄也 数理工学専攻4年



優秀賞

作品名・テーマ：おおくぼのおか ~50年後の生産工学部~
制作者：甲斐 有美子 建築工学科4年
共同制作者：小池 麻実 建築工学科4年
久保 明日奈 建築工学科4年

平成21年度 表彰学生

総長賞 2名

建築工学専攻 博士前期課程 2年

加藤 尚裕 (かとう たかひろ)

2009年度全日本学生建築コンソーシアム2009住宅設計コンペ最優秀賞

テーマ 「50年デザイン住宅」

主催 JACS 全日本学生建築コンソーシアム

協力 リビングデザインセンターOZONE

応募総数 367点

入賞 12点(最優秀賞2点, 協賛社賞1点, 優秀賞9点)

機械工学科 4年

澤井 英幸 (さわい ひでゆき)

優秀賞 1名

機械工学専攻 博士前期課程 1年

相川 雄也 (あいかわ ゆうや)

平成22年1月4日午後11時20分ごろ
習志野市津田沼の路上で発生した窃盗
事件を目撃。被疑者を追跡し取り押さ
えた。このことにより平成22年1月29日
県公安委員会福田康一郎委員長から県

公安委賞揚を授与。県公安委賞揚は、
千葉県安心で安全なまちづくりの促進に
関する条例に基づき、県民の模範とな
ると認められる者を称える制度で、平成16
年に制定され83人目の荣誉である。

優等賞 24名

機械工学科 椎野 恭平
〃 黒木 亨
〃 倉持 卓功
〃 平野 佑林
電気電子工学科 鷺尾 洋範
〃 池澤 弘貴
〃 松川 達
〃 大川 智成

土木工学科 國東 保志
〃 丸 佳央
〃 植松 希予
〃 高橋 一磯
建築工学科 須賀 一裕
〃 杉山 隆信
〃 齊藤 直樹
〃 佐藤 大仁

応用分子化学科 多賀谷 敦大
〃 岩間 由華
〃 金間 渉
マネジメント工学科 三浦 和真
〃 佐藤 雄紀
〃 服部 佑三
数理情報工学科 小松 正樹
〃 大野 真枝

善行・課外活動等による表彰学生 56名

課外活動部門(体育系) (15名)

卓球部(2名)

機械工学科 青木 克未

平成20年度日本大学体育大会卓球競技会優勝。

平成21年度日本大学体育大会卓球競技会優勝。

マネジメント工学科 佐藤 雄紀

平成20年度日本大学体育大会卓球競技会優勝。

柔道部(2名)

建築工学科 平野 宏暁

平成18年度第47回全日本理工科学学生柔道優勝大会優勝。平成18年度日本大学体育大会柔道競技

会優勝。平成19年度全日本理工科学学生柔道優勝大会第3位。

大会第3位。

数理情報工学科 嶋田 匡希

平成18年度第47回全日本理工科学学生柔道優勝大会優勝。平成18年度日本大学体育大会柔道競技

会優勝。平成19年度全日本理工科学学生柔道優勝大会第3位。

大会第3位。

バレーボール部(9名)

機械工学科 早乙女 貴哉

平成18年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。平成19年度日本大学体育大会バレーボ

ール競技会優勝。平成20年度日本大学体育大会

バレーボール競技会優勝。

電気電子工学科 真中 竜次郎

平成18年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。平成19年度日本大学体育大会バレーボ

ール競技会優勝。平成20年度日本大学体育大会

バレーボール競技会優勝。

土木工学科 愛敬 純一

平成18年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。

土木工学科 柴崎 靖大

平成18年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。

土木工学科 吉村 明

平成18年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。平成19年度日本大学体育大会バレーボ

ール競技会優勝。平成20年度日本大学体育大会

バレーボール競技会優勝。

建築工学科 藤川 竜也

平成19年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。平成20年度日本大学体育大会バレーボ

ール競技会優勝。

数理情報工学科 坂本 皓

平成18年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。平成19年度日本大学体育大会バレーボ

ール競技会優勝。平成20年度日本大学体育大会

バレーボール競技会優勝。

数理情報工学科 千住 典之

平成18年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。平成19年度日本大学体育大会バレーボ

ール競技会優勝。平成20年度日本大学体育大会

バレーボール競技会優勝。

数理情報工学科 田路 翔大

平成18年度日本大学体育大会バレーボール競技

会優勝。平成19年度日本大学体育大会バレーボ

ール競技会優勝。平成20年度日本大学体育大会

バレーボール競技会優勝。

スキー部(2名)

機械工学科 鶴崎 直

平成20年度日本大学体育大会スキー競技会で男

子大回転優勝ならびに男子団体総合優勝。平成

21年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体

総合優勝。

マネジメント工学科 古市 孝平

平成20年度日本大学体育大会スキー競技会男

子団体総合優勝。平成21年度日本大学体育大

会スキー競技会男子団体総合優勝。

課外活動部門(学術・文化系) (32名)

津田沼航空研究会 (9名)

機械工学科 相原 秀紀

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

機械工学科 小笠原 俊哉

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

機械工学科 小川 直見

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

機械工学科 小林 賢知

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

機械工学科 佐野 正博

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

機械工学科 原 哲子

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

機械工学科 道下 和隆

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

機械工学科 森田 英嗣

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

数理情報工学科 高橋 洋平

平成18年第30回鳥人間コンテスト選手権大会滑空機部門第2位 (30チーム中2位)。

自動車生産研究会 (3名)

機械工学科 茂木 宏生

平成21年度第29回本田社一郎杯Hondaエコノパワー燃費競技全国大会市販車クラスにて総合3位 (56車走行)。

機械工学科 山口 祐司

平成21年度第29回本田社一郎杯Hondaエコノパワー燃費競技全国大会市販車クラスにて総合3位 (56車走行)。

電気電子工学科 横須賀 充

平成21年度第29回本田社一郎杯Hondaエコノパワー燃費競技全国大会市販車クラスにて総合3位 (56車走行)。

学術・文化系 (20名)

機械工学専攻 水田 知宏

平成21年度(社)溶接学会奨励賞受賞(総受賞者数18名,対象約200名)。

建築工学専攻 堤 和樹

2007年度支部共通事業日本建築学会設計競技「人口減少時代のマイタウンの再生」関東支部入選(応募作品58件中入選13件)。

建築工学専攻 小林 麻梨菜

隔年開催の第6回代官山インスタレーション2009において審査員特別賞受賞(主催:代官山インスタレーション実行委員会,後援:国土交通省関東地方整備局,他/千葉工業大学3年・小林祐との共同制作,応募件数469件,入選10件)。

建築工学専攻 里見 慎拓

2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アーバン・フィジックスの構想」関東支部入選(応募作品69件中入選15件,松本究と共同制作)。
2009年第1回モバイルアーキテクチャ・コンペティションにて優秀賞受賞(200件中入選7件,山沢政行と共同制作)。

建築工学専攻 早川 貴子

2008年第2回芸術センター記念建築コンペティション「進化したヒューマンオフィス」で銅賞受賞(応募作品200数件中入選7件,奥原弘平(学部4年)等との共同制作)。
2009年第3回芸術センター記念建築コンペティション「大不況下の複合商業施設」で入選(応募件数非公開,小野寺真希(学部3年)等と共同制作)。

建築工学専攻 松本 究

2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アーバン・フィジックスの構想」で関東支部入選(応募作品69件中入選15件,里見慎拓と共同制作)。
平成21年度第5回「新・木造の家」設計コンペ入選(主催:NPO法人森林をつくろう,応募作品37件中入選8件)。

建築工学専攻 佐藤 裕介

平成20年度「こんな家に住みたい!埼玉の木の家・設計コンペ2008」(主催:木づかい夢住宅実行委員会)で優秀賞受賞(応募作品35件中入選4件)。

建築工学専攻 八島 健介

平成21年度JIA東海支部設計競技「うちとそと」(主催:日本建築家協会東海支部)で銅賞受賞(応募作品139件中入選9件)。
第1回アサヒグローバル学生設計コンペティション(主催:アサヒグローバル(株))で審査員特別賞(応募作品202件中入選10件)。

建築工学専攻 山沢 政行

2009年第1回モバイルアーキテクチャ・コンペティションにて優秀賞受賞(200件中入選7件,里見慎拓と共同制作)。
2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アーバン・フィジックスの構想」で北陸支部入選(応募件数14件中入選4件)。

建築工学科 大澤 智美

2008年第2回芸術センター記念建築コンペティション「進化したヒューマンオフィス」で銅賞受賞(応募作品200数件中入選7件,奥原弘平(学部4年)等との共同制作)。

建築工学科 小川 翔大

2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アーバン・フィジックスの構想」で九州支部入選(応募件数85件中入選作品18件,田中涼子,須藤裕介との共同制作)。

建築工学科 奥原 弘平

2008年第2回芸術センター記念建築コンペティション「進化したヒューマンオフィス」で銅賞受賞(応募作品200数件中入選7件,早川貴子等との共同制作)。
2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アーバン・フィジックスの構想」で東海支部入選,全国審査にてタジマ奨励賞受賞(支部入選78件中,全国入選12件,タジマ奨励賞7件,松浦真也,三代川剛久との共同制作)。

建築工学科 島田 裕大

2009年第3回長谷工住まいのデザインコンペティションにて佳作受賞(主催:長谷工コーポレーション,応募作品442件中入選10作品)。

建築工学科 須藤 裕介

2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アーバン・フィジックスの構想」で九州支部入選(応募件数85件中入選作品18件,小川翔大,田中涼子との共同制作)。

建築工学科 田中 涼子

2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アーバン・フィジックスの構想」で九州支部入選(応募件数85件中入選作品18件,小川翔大,須藤裕介との共同制作)。

建築工学科 松浦 真也

2009年第3回芸術センター記念建築コンペティション「大不況下の複合商業施設」で入選(応募件数非公開,入選7件,小野寺真希(学部3年)等と共同制作)。

建築工学科 三代川 剛久

2009年度支部共通事業日本建築学会設計競技「アーバン・フィジックスの構想」で東海支部入選,全国審査にてタジマ奨励賞受賞(支部入選78件中,全国入選12件,タジマ奨励賞7件,松浦真也,奥原弘平との共同制作)。

数理情報工学専攻 川田 大

2009年MDDロボットチャレンジ飛行船ロボットコンテスト「相撲競技」にて準優勝(主催:情報処理学会,参加数11チーム,伊藤崇,谷村理紗子と共同制作)。

数理情報工学科 伊藤 崇

2009年MDDロボットチャレンジ飛行船ロボットコンテスト「相撲競技」にて準優勝(主催:情報処理学会,参加数11チーム,川田大,谷村理紗子と共同制作)。

数理情報工学科 谷村 理紗子

2009年MDDロボットチャレンジ飛行船ロボットコンテスト「相撲競技」にて準優勝(主催:情報処理学会,参加数11チーム,川田大,伊藤崇と共同制作)。

桜泉祭・スポーツ大会関係 (9名)

電気電子工学科 宮古 理志

平成20年度スポーツ大会実行委員長。

電気電子工学科 杉山 正和

平成20年度スポーツ大会副委員長。

電気電子工学科 笛木 将大

平成20年度スポーツ大会副委員長。

建築工学科 矢野 智子

平成20年度桜泉祭実行委員会副委員長。

建築工学科 渡邊 秀人

平成20年度桜泉祭実行委員会副委員長。

建築工学科 一山 賢吾

平成20年度桜泉祭実行委員会建設部長。

建築工学科 中村 聡子

平成20年度桜泉祭実行委員会広報部長。

マネジメント工学科 今井 健一

平成20年度桜泉祭実行委員会財務部長。

マネジメント工学科 小船屋 航

平成20年度桜泉祭実行委員会企画部長。

(平成22年3月11日現在)

平成22年度行事予定

行 事	2～4年次：津田沼校舎	1年次：実習校舎	大学院	備 考
開 講 式		4月1日(木)津田沼校舎	4月1日(木)	
ガ イ ダ ン ス	4月3日(土)～7日(水) ※応化2年 4/1(木)から ※電気・応化3・4年 4/2(金)から	4月1日(木)～7日(水)	4月1日(木)	1年生は 4/2(金) にプレ ースメントテストを行う。
入 学 式		4月8日(木)		日本武道館
前 期 授 業 開 始	4月9日(金)	※7/30(金) は月曜授業(大学院)を実施		
父 母 懇 談 会	4月10日(土)津田沼校舎			6/27(日) に地方別実施
定 期 健 康 診 断	4月13日(火)～16日(金)	女子学生:4月15日(木)・16日(金)		
ス ポ ー ツ 大 会		5月29日(土)		
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	7月11日(日)			
大 学 院 入 学 試 験(第1期)・学 内 選 考			7月10日(土)	
前 期 授 業 終 了	7月15日(木)		7月30日(金)	
補 講		土曜日適時実施		
前 期 試 験	7月16日(金)～7月28日(水)			
夏 季 休 業	7月29日(木)～9月21日(火) ※応用分子化学科1・2年のみ9/20(月)まで		8月2日(月)～9月21日(火)	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	8月1日(日)・2日(月)			AO入学試験説明会
追 試	卒研等単位取得の4年生 8月6日(金)			
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	9月5日(日)			
追 試	9月13日(月)・14日(火)			
A O 入 学 試 験	9月18日(土)・9月19日(日)			
後 期 ガ イ ダ ン ス	9月22日(水) ※応用分子化学科1・2年のみ9/21(火)・9/22(木)		9月22日(水)	
後 期 授 業 開 始	9月24日(金) ※10/2(土)、10/9(土) は月曜授業(学部・大学院)・11/27(土) は火曜授業(大学院)を実施			
卒 業 式 学 位 授 与 式(9月)	9月25日(土)		9月25日(土)	
創 立 記 念 日		10月4日(月)		休校
編 入 学 試 験(2年次・3年次)	10月16日(土)			
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験	10月16日(土)			
帰 国 生 入 学 試 験	10月16日(土)			
学 部 祭(桜 泉 祭)	10月30日(土)～11月1日(月)			(10月29日準備日、 11月2日片付日)
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	10月31日(日)			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験	11月14日(日)			
体 育 推 薦 入 学 試 験	11月14日(日)			
校 友 子 女 入 学 試 験	11月14日(日)			
付 属 高 等 学 校 等 入 学 試 験(付 属 推 薦 B 方 式)	11月20日(土)			
博 士 論 文 提 出 期 日			11月25日(木)	
学 術 講 演 会		12月4日(土)		
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12月11日(土)			
付 属 高 等 学 校 等 入 学 試 験(付 属 推 薦 A 方 式)	12月18日(土)			
冬 季 休 業	12月27日(月)～1月8日(土)			
後 期 授 業 終 了	1月18日(火)		1月31日(月)	
補 講	1月14日(金) 及び土曜日に適時実施			
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験(C 方 式)	1月15日(土)・16日(日)			
後 期 試 験	1月19日(水)～1月31日(月)			
修 士 論 文 概 要(初 稿)提 出 期 日			1月27日(木)	
入 学 試 験	A 1 方 式 2月1日(火) A 2 方 式 2月9日(水) A 3 方 式 2月19日(土)			
追 試	2月14日(月)・15日(火)			
修 士 論 文 提 出 期 日			2月21日(月)	
大 学 院 入 学 試 験(第 2 期)			3月5日(土)	
転 科 試 験(2 年 次)	3月7日(月)			
卒 業 式・学 位 授 与 式	3月25日(金)		3月25日(金)	日本武道館

待ってま～す



SPRINGのパワーUPをめざして!

学部広報誌「SPRING」も今号で94号、創刊100号までカウントダウン。そこで、編集部では、毎号テーマを決め、学生の皆さんからアイデアやご意見を募集し、楽しく充実した誌面作りに反映していきたいと考えています。

今回のパワーUPテーマは「**学生食堂**」。

「こんなメニューが欲しい!」、「食品アレルギー対策」、「喫煙室」……。ふだん感じていること、思っていることをビシバシ投稿してください。宛先は下記アドレスです。

E-mail cit.shomu@nihon-u.ac.jp

会計課からのお知らせ

授業料その他の学費は期日までに指定の振込用紙を使用のうえ、下記期日までに納入してください。

前期分＝4月末日

後期分＝9月末日

学費等の相談及び
教育ローンを利用される方は
会計課窓口まで。

目次へ

はあ〜い! みんな元気!?
生産工学部も9学科構成になって楽しくなってきたネエ。でも、ものづくり精神は不変よ。
今回は就職氷河期を乗り越えるため、専門家をゲストにお迎えしてお話を伺うと共に、過去に登場戴いた先人のアドバイスも交えた総集編なのだ!



前(株)ディスコ
キャリアエージェント部
シニアコンサルタント
富岡 敏明氏

Q 近年、工学系の採用状況はどうですか?

富岡 2005年以降の就職率は96~99%と非常に高くなっています。やはり、工学系学生に対するニーズは強いものがあります。

Q 世界経済が激動する現在、来年以降の新卒市場の動向はどうなるのでしょうか?

富岡 企業は景気動向、市場状況、自社の経営状況、自社製品開発状況などを考慮して新卒採用数を決定しますが、一年に一度のため、ある時点の諸状況から1~2年の遅れがでます。たとえばバブル崩壊は1990~1991年でしたが、就職氷河期が始まったとされるのは1993年3月でした。

Q これから、就職活動を始める学生にアドバイスををお願いします。

富岡 時代の流れで製品や市場の国際化がいっそう進むのは間違いありません。キーワードは英語力の向上、情報機器の習熟、経理的数字の理解の3点です。

英語は特に会話力が重要です。さまざまな勉強法がありますが、たとえば興味のあるアメリカ映画のDVDで英語を聞きながら英語の字幕を見るなど、自分で勉強できる環境があるのでぜひ英会話力を伸ばしてください。情報機器を使いこなすことによって技術をはじめ多様な分野の最新情報を入手し、自分の仕事に生かすことができます。経理的数字はたとえば目標やコストの管理また企業の業績など常に目を配っておくことが重要なので、まず財務諸表を読むようにしておかれるとよいと思います。

今日は貴重なお話、ありがとうございました。私たちもがんばります。



SPRING
No.89

「最善をつくせ
そして常に一流たれ」

(有)アシスト代表 畠中さん

ものづくりをしていて一番楽しく、また苦しいのは、造ったものが形として生き続けるということです。良くても悪くても結果は形として現れますから。私の大好きな清里の父ポールラッシュ博士のことばを学生の皆さんに贈ります。



SPRING
No.90

地図には飽きない夢がある。
好きだからこそ悩めるのだ!

(株)ジェオ代表 蕪木さん

就職した当時は、今のような充実した研修制度は無く、「仕事は盗んで覚えろ!」と言われ、自分の仕事を終えた後、先輩の机の脇でじっと見て覚えました。深夜になっても、好きだから、興味があるから全く辛くはなかった。技術は、目と頭と体で会得してきた。



SPRING
No.91

『ドゥーバ!』

編集長 脇野さん

ものづくりを楽しむ人たちは、つくった結果を楽しむのではなく、つくるプロセスを楽しんでいる。なにかをつくりあげる達成感に軸足を置いている。つくりあげたら、さらに次のステップへとエスカレートする。そんな傾向があります。

好きな職業というよりは、自分にあつた職業を選び。これは自分を客観視する||自分をポジショニングできる能力が問われるのだ。



SPRING
No.92

IID 世田谷ものづくり学校
広報 上砂さん

ものづくりに携わる人々に共通するのは、既成概念にこだわらず、物事を柔軟に捉えていらっしゃる。そしてご自分の中に確かなこだわりとセンスがあります。ものづくりに関わることは、その対象である「もの」に意識が向かいがちかもしれませんが、実は人とコミュニケーションし関わるということが必要不可欠なのです。

ものづくりに大切なことは人とのコミュニケーションです。



SPRING
No.93

(株)カントー
ITS事業部 光野さん

ビジネスマンとして一番大切なのは、知識や教養よりもむしろコミュニケーション能力。学生の皆さんは今のうちから、一人でも多くの方と関わり、いろんな事を分かち合い、社会人としての基礎力(コミュニケーション能力)を身に付けておくことが大切です。

ものづくりの仕事だからこそ豊かな人間力が大切なのです。

History of CIT

騎兵第14連隊之跡碑



『坂の上の雲』と騎兵連隊

津田沼キャンパスの図書館脇に建つ「騎兵第14連隊之跡碑」。司馬遼太郎ファンの方なら、小説『坂の上の雲』で日露戦争で活躍する秋山好古を思い出すでしょう。津田沼キャンパスはその騎兵第14連隊跡地に誕生しました。『坂の上の雲』では、明治の日本が近代国家へと邁進していく中、正岡子規や秋山好古の弟真之ら若者がそれぞれの専門分野で革新的な生き方をし、目の前に浮かぶ雲（夢・目標）を見つめ近代への坂を上っていきます。時代をリードするのはいつの時代も若者。生産工学部で学ぶ学生が、工学を通して次代を切り拓いていくことを、キャンパスの隅で静かに見守っています。



スプリング

SPRING No.94

(日本大学生産工学部だより)

平成22年3月19日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail: cit.shomu@nihon-u.ac.jp

www.cit.nihon-u.ac.jp

目次へ